

1. 科学探究型人材育成に向けた学校設定科目の全分野への派生

表現理解力における質問をする力の育成が依然として課題になるため、その点に注力した改善が必要である。令和2年度においては改善に向けた取り組みの実施し成果は得られたが、新型コロナウイルス感染症の影響によりその効果が十分に発揮されなかった。令和3年度においては更なる改善を実施することにより生徒の能力育成を目指す。

「神戸サイエンス」と「特別探究」において「課題研究の手引き」が冊子となっている。この手引きを地域や学校HP等で共有し成果の普及を行う。手引きの内容についても指導における基本事項に関するものとなっているため発展的な内容についても掲載できるようにアップグレードしていく。

2. 英語で議論する力の向上をめざす実践的なカリキュラムの開発

「サイエンス英語」の科目は生徒の能力育成面において高い向上率が得られているが、カリキュラム上総合科学系の生徒のみの科目となっている。今後はこの科目で開発した指導手法を全生徒に還元できる形を検討することが課題である。また方法の一つとして「課題研究の手引き」同様に手引きを作成し普及することを目標とする。

海外研修については、SSH オーストラリア海外研修を基にしつつ海外研修の抜本的な改善を検討する。その中で、一部の生徒のみの参加となっている本研修の成果を全生徒へ還元する手法も取り入れつつ検討を行う。校外に向けては現在作成中の「海外研修の手引き」を共有することによって成果の普及を行う。

3. 研究成果に基づく交流機会の増加と生徒の自立的成長の支援

総合科学系、人間科学系生活福祉コース、情報科学系以外の生徒の外部発表会の参加を促すとともに、参加者数の増加を目指していきたい。

4. 探究型人材育成カリキュラムの全校生徒への波及

「神戸学の手引き」の使用により全校生徒が課題研究に取り組む体制が出来つつあるが、課題研究の指導の経験が少ない教員からはさらに詳しい手引きの作成が望まれている。今年度は人間科学系生活福祉コースで、コースの専門に合わせた形で成果の普及に関しては「神戸学の手引き」を学校のHP上にアップロードすることで普及していきたい。

5. 市立高校の強みを生かした科学技術系人材育成のための連携拠点

各取り組みが地域の科学技術系人材の育成に有効であるという成果は得られているが、各取り組み同士が独立しているため、各取り組みが有機的な繋がりを持ちより効果的な育成ができるように内容を検討する。